

## グローバル時代の学習者、ペダゴジー、学習内容、評価 —新しい日本語教師養成のニーズ—

當作靖彦（カリフォルニア大学サンディエゴ校）

このワークショップでは、教師にとって重要なターゲットである学習者、ペダゴジー、学習内容、評価を新しい時代の言語教育のアプローチがどのように捉えているかを概観し、この新しいアプローチを教室で実行できる教師を養成するためには、どのような教師の能力開発が必要かを台湾というコンテキストの中で考えてみました。それをもとに、台湾の教師教育指導者に必要な知識、能力、資質を考え、台湾の教師養成、教師研修の今後の方向性を参加者と一緒に考えました。

学習者は教師にとって一番重要な存在と言っても過言ではありません。以前は教育の中心は教師であり、教師の頭の中にある知識が、学習者に移動するのが教育であると考えられていました。学習者はあくまでも教師からの知識を受け取る受動的な存在でしかありませんでした。しかし、現在の構成主義、あるいは社会構成主義の考えでは、知識はそれぞれの学習者の頭の中で形成されるもので、構成主義、社会構成主義が教育学の中で主流となるとともに、学習の主体は学習者であるという考えが一般的となりました。それぞれの学習者の経験、既習知識、興味などが異なるため、それぞれの学習者によって異なる知識が形成されると考えられ、以前の教師の知識がそのまま学習者の頭に移動すると考えられた時代の知識は普遍的であるという考えから、知識は多様であるという考えに変わりました。また、学習者は知識形成の過程で能動的でなければならないと考えられています。以前の学習者が教師に従属するという力関係から、学習の中で、学習者が中心となり、教師と学習者が学習の責任を共有する、さらには、学習者が学習の主体となる考えが一般的となりました。

以前のペダゴジーは、認知能力は情緒的能力や学習の動機付けとは別であるという考えから、記憶や理解という認知能力のみを利用したものでしたが、現在では、認知能力は情緒的能力や学習の動機付けと結合したものであるという考えから、情緒的能力、動機付けを考慮したペダゴジーに変わってきてますし、学習の動機付けを高めることが教師の重要な役割の一つとなってきています。すなわち、教師は知識のソースとしての役割から、学習を促進したり、学習しやすくなるよう学習を助ける役割に変わってきています。

以前のペダゴジーでは、学習の過程があって、その結果として最後に出てくる学習結果が重要であるという考えでした。しかし、学習とは知識を学習者が形成する過程であるという現在の考えから、学習の過程も結果も両方重要であると考えられるようになりました。

学習者中心のペダゴジーを実行するためには、教師はそれぞれの学習者の特性を知る必要がありますし、学習者の特性を活かす方法を知っている必要があります。

また、多様な学習者の特性に対応するために、同じクラスの中で、多様な学習者に対応できるペダゴジーが必要となります。例えば、区別化教育などを実行することが求められています。

これまでの教育では、教科の内容を教えること、あるいはそれを現実生活に応用することを教えることが主たる教育内容でした。しかし、最近では、それをツールとして、現実の生活を生きるための社会力、問題解決能力、意志決定能力、高度の思考能力、創造力、協働力などを身につけることが教育の主要目標となり、教育内容もそれを反映するものとなりました。そして、主要な教科の内容を学ぶことよりも、それを学ぶ中でものごとに疑問を持ち、自分で探求することが一番重要となってきました。

評価も学習者中心となり、教師が学習者に順位を付けたり、学習者をふるい分ける評価から、学習を助ける、学習を促進する評価に変化してきました。信頼性が高い計量心理学中心主義の評価から、テストしたいことをテストし、学習目標を達成したかどうかを調べる、さらには学習目標達成を助ける教育目標中心主義の評価に変わってきました。上述のように、学習過程が重視されるなか、学習結果を評価する総括的評価よりも、学習過程を評価する形成評価がより重視されるようになってきました。ポートフォリオ評価が使われるようになった理由はこの変化が関係しています。知識は多様であるという考えから、答が一つしかない単一項目評価からオープンエンドの学習者が答えを作る評価への変化も見られます。また、多様な知識の評価のためにルーブリックなどが使われるようになりました。

以上のような変化の中で、教師の持つ知識、能力、資質の変化が求められています。果たして台湾の現在の日本語教師の養成、研修はこのような変化に対応し、新しいタイプの教師を育てているのでしょうか。また、そのような教師を育てるためには、教師教育の指導者自身がどのような能力を持っている必要があるのでしょうか。新しい教育のアプローチが現れ、それを教室で実現することが求められていますが、教師、教師教育の指導者のマインドセットは新しくなっているのでしょうか。

このワークショップでは、台湾の教師教育の指導者の先生たち、教師教育を受ける先生たちと台湾の新しい日本語教師の養成、研修について話し合いました。参加者の共通した意見は、現在の台湾の教師教育は、日本語という教科の内容が中心になっており、新しいアプローチを授業実践できる日本語教師を育てるためには変革が必要であり、まず教師教育関係者が新しいアプローチを理解し、台湾でどのように実践可能かを探求することであるということでした。